

# 鳥取大学附属特別支援学校の高等部専攻科における教育

— 2007・08 年度における「教養」の授業実践 —

渡部 昭 男\*

Education in the Post-Graduate Course of the Upper Secondary Department of  
Tottori University School for Children with Special Needs :  
A Report on Classroom Practice of “Culture” in the School Year 2007 & 2008

WATANABE Akio

キーワード：特別支援教育 鳥取大学 高等部専攻科 青年期 移行支援

Key Words: special support education, Tottori University, post-graduate course of upper secondary department, adolescence, transition support

## I. はじめに

2006 年度から、鳥取大学附属養護学校（2007 年度より鳥取大学附属特別支援学校に改称）に国立養護学校として全国初の高等部専攻科が開設されている。開設の経緯や教育課程の枠組み等については、すでに別途<sup>1)</sup>に報告ないし発表した。筆者はそれらを通して、「子どもから大人へ」「学校から社会へ」という「二重の移行支援」の視点において高等部専攻科を位置づけようとしてきた。

その際、法制度の整備や支援システムの構築はもちろん、あわせて教育実践レベルにおいても「二重の移行支援」を創出することを強く意識してきた。

筆者は、開設初年度から特別講師として高等部専攻科の「教養講座」（2007 年度より「教養」に改称）を担当する貴重な機会を得ている。その第一報は、「鳥取大学附属養護学校の高等部専攻科における教育—2006 年度における『教養講座』の実践—」として『地域学論集』4 巻 1 号に掲載した。本稿では、つづく開設 2～3 年目にあたる 2007～08 年度における「教養」の授業実践をまとめ、青年期らしい授業の在り方を考究する。

## II. 2007 年度における「教養」の実践

### 1. 2007 年度における高等部専攻科の概要

#### 1) 教育目標

2007 年度における専攻科の教育目標は、「社会への関心を持ち、様々な人とかかわりながら、積極的に社会参加しようとする青年～まずやってみよう 自分をみつめ 広く社会へとびだそう～」で

---

\* 鳥取大学地域学部地域教育学科 akiowtnb@rstu.jp

ある。下線を付した箇所は、前年度の「学生」から「青年」へと修正されており、「青年期」をより意識した表現となっている。

## 2) アドミッションポリシー

「専攻科学校公開」(2007年8月31日)の説明資料では、「専攻科は生徒一人ひとりの“自分づくり”と自立した豊かな社会生活への移行を支援します」と表明した上で、「こんな気持ちで学びたいみなさんを待っています」として、アドミッションポリシーを以下のように記載している。

- 「社会自立へ向けて、高3卒業後も もっと、ゆっくりと豊かに学びたい・・・」
- “自分らしさ”をみつけ、もっと自分に自信をつけてから、社会に出たい
  - もっといろいろなことに チャレンジしてみたい
  - 社会生活の仕方をじっくりと学び、くらしを豊かにする力をつけたい
  - いろいろな職場体験をして自分のことを知り、自分に合った仕事をみつめたい
  - 人とかかわりをもっと広げ、コミュニケーションの力を高めたい
  - 自分の楽しみを広げ、余暇の時間が上手に使えるようになりたい
  - 調べたい研究をして、自分の思いが相手にうまく伝わる発表がしてみたい
  - グループホーム体験で、家族と離れ、地域の仲間とくらす学習がしたい
  - ひとり暮らしもできるような力を身につけたい …等々

前年度と比べると、下線を付した3項目が修正されている。念のために2006年度の文章をかかざると、「いろいろな職場体験をしてから、自分がやりたい仕事をみつめたい」「グループホーム体験で、地域の仲間とくらす学習がしたい」「ひとり暮らしもできるようになりたい」であった。

## 3) 教育課程と週時程表

教育課程は、「くらし」「労働」「余暇」「教養」「研究ゼミ」の5領域で編成されている。「教養講座」から「教養」への改称を除いて前年度と同様であるが、週時程表(表1)については幾つかの変更点がある。

前年度は、登校後に体育館やグラウンドを使ったり、校外の散歩・ジョギングを通して身体づくりを行う「くらし(健康)」(8:55~9:30)の次に「ミーティング」(9:30~9:35)を行い、主な授業に入っていた。これに対して、2007年度は「くらし(健康)」と「ミーティング」を併せて1時間余り(8:55~10:00)のゆったりした時間帯としてまず確保している。

続いて、「くらし(ふれあい)」(10:00~10:30)を置いている。これは、全員で雑談しながらお茶を楽しむ時間で(専攻科で毎日購読している地方新聞から話題を拾ったり、読んでメモする活動なども行う)、前年度は「ティータイム」(10:35~11:00)として業間休憩として入れられていた。

主な授業は、前年度は1枠を60分として業間休憩を挟みつつ「2枠続きの120分の時間帯」を午前(9:35~10:35, 11:00~12:00)・午後(13:00~14:00, 14:05~15:05)に置いていたが、2007年度は「100分間連続の時間帯」を午前(10:30~12:10)・午後(13:20~15:00)に各々設けるように改めている。配当は、月曜午後にあった「研究ゼミ」と水曜午前にあった「労働」が入れ替わったこと、金曜午前の「教養講座」が「教養」に改称されたこと程度で、ほぼ同じである。

なお、前年度と同様に木曜日の給食はカットされており、自分たちで昼食づくりを行う「くらし(食)」が木曜午前に設けられている。

表1 高等部専攻科における週時程表及び5領域の教育課程（2007年度）

	月	火	水	木	金
8:55	登校時間				
10:00	ミーティング・くらし（健）				
10:30	くらし（ふれあい）				
12:10	くらし	労働	研究ゼミ	くらし（食）	教養
13:20	昼食（木・自炊）・歯みがき・休けい				
15:00	労働	くらし	余暇	余暇	くらし／労働
15:15	清掃・ミーティング			清掃・ミーティング	

くらし	～人とのかかわり 社会生活や家庭生活を～ 新入生歓迎会 自転車検定 グループホーム体験 学部遠足 研修旅行・修学旅行 登山 おしゃれ講座 健康なからだづくり 食の学習
労働	～働くって？ 仕事さがし 仕事学習～ 職場見学 現場実習 技能・作業大会 ものづくり ふれあいまつり 販売 野菜や花の栽培
余暇	～生涯スポーツや学習にチャレンジ～ ボランティア 文化スポーツ諸施設の利用 漢字検定 フラワーアレンジメント
教養	～大学等の資源を生かし くらしに役立てよう～ 食生活 新聞 金銭管理 性教育 選挙 年金 法律と福祉制度
研究ゼミ	～自分で調べて整理し 思いを相手に伝えよう～ オリエンテーション テーマづくり 製作 研究調査活動 リハーサル ゼミ発表会

#### 4) 人員構成

1期生の2年生が3名（内部進学2名・他1名、男2名・女1名）、2期生の1年生が5名（内部進学2名・他3名、男2名・女3名）の計8名からなる「2学年複式1学級編制」である。

担任は、学年進行により学生数が増えたために、前年度より1名増えて2名（男女各1名）である。他に教頭（女1名）が専攻科主任を兼務するとともに、「くらし（食）」に教務主任（女1名）が応援に入っている。加えて、「教養」は大学スタッフや社会人などの外部講師も担当する。

## 2. 「専攻科学生は子ども？それとも大人？」（2007年7月15・19日）の授業

### 1) 「教養」の年間題材配当計画

「教養」の2007年度における年間題材配当計画は、「4月—金銭管理・小遣い・貯金、5月—詩を読む・詩を書こう、6月—恋愛についてドラマをつくろう（GT/ゲスト・ティーチャーの略）・ものづくり交流、7月—大人になるとは〔選挙・年金等〕（GT）、9月—食生活（GT）、10月—ものづくり・彫塑、11～12月—法律・福祉制度（GT）、1～2月—性（GT）・結婚（GT）、3月—自己認識・性格・価値観・危機管理」となっている（単元と呼ぶ方が相応しいものを含む）。

### 2) 授業の計画—指導案の作成

筆者が任されたのは、「7月—大人になるとは」の単元であり、「選挙・年金」を題材にして、7月

15日(参観日を兼ねる)と19日の2回計画である。

授業実施にあたり筆者は、細案でなく略案形式ではあるが、必ず「指導案」(次頁に掲載)を作成し、予め専攻科主任や担任に示すようにしている。指導案は、「講座名、日程、場所、社会生活力、目標、概要」から構成されている。

「大人になるとは[選挙・年金等]」の授業の依頼を受けた際に、筆者が踏まえたかったのは、「専攻科がスタートして2年目の特徴として年度内に1期生は成年を迎える」という事実の重みである。そこで、目標を以下のように設定した。

[目標] 専攻科の2年間は、社会的な地位を未成年から成年へと変化させていく重要な期間である。中には、20歳の誕生日を迎えて、すでに成人の学生もいる。「子ども-大人」の区別に生物学的指標・社会的経済的指標・心理的指標などがあることを学ぶ中で、生物学的にはすでに「大人」だが、社会的経済的にはまだ「子ども」である自分自身に気づいてほしい。その上で、どのように「成人」を迎えるのか、「成人」になったらどのように振る舞うべきなのかを考えるきっかけとして、特に選挙権(投票権)及び年金受給について学ぶ。

そして、授業の目標に相応しいタイトルを「専攻科学生は子ども?それとも大人?」と定めた。このタイトルには、①授業を通して受講生の認識を揺さぶりたい、②受講生の興味を引き関心を高めたいとの願いも込めている。

また筆者は、専攻科主任や担任が用いている「社会生活力プログラム」<sup>2)</sup>に即して、どの部門のどのモジュールと関連するのも示すようにしている。詳細は原著に譲るとして、「第1部:生活の基礎をつくる=モジュール1.健康管理,2.食生活,3.セルフケア,4.時間管理,5.安全・危機管理」「第2部:自分の生活をつくる=モジュール6.金銭管理,7.住まい,8.そうじ・整理,9.買い物,10.衣類管理」「第3部:自分らしく生きる=モジュール11.自分と障害の理解,12.コミュニケーションと人間関係,13.男女交際と性,14.結婚,15.育児」「第4部:社会参加する=モジュール16.情報,17.外出,18.働く,19.余暇,20.社会参加」「第5部:自分の権利をいかす=モジュール21.障害者福祉制度,22.施設サービス,23.地域サービス,24.権利擁護,25.サポート」の5部門25モジュールが設けられている。今回の授業では、「第4部:社会参加する=モジュール16.情報,20.社会参加」「第5部:自分の権利をいかす=モジュール21.障害者福祉制度,24.権利擁護」を特にねらった。なお、後に考察で触れるが、授業展開においては「第3部:自分らしく生きる=モジュール11.自分と障害の認識,12.コミュニケーションと人間関係」も意識して進めている。

授業の構成は、前年度からおよそ一貫しており、「導入=自己紹介・頭の体操,展開=ワークシートを使った学習,まとめ=本日のまとめ・次回の予告」という展開パターンで組まれている。

なお、授業の実際については可能な範囲でビデオ録画ないしICレコーダー録音を行った。

### 3) 授業の実施

#### 3)一1.「私は 子ども?大人?」(7月15日実施)

筆者と1期生の3名は既知であるが、2期生の5名は初対面なので、10時の「くらし(ふれあい)」から参加して、授業を前にお茶を一緒に楽しんだ。参観に訪れていた保護者も交えて、賑やかな一時となった。緊張がほぐれたところで、第一次「私は 子ども?大人?」の授業開始である。

「導入・その1」は「自己紹介」(10:30~10:40)だが、あくまで導入なので、「氏名,学年,出身校」の紹介程度に留めて簡潔に済ませた。自己紹介が終わったところで、ワークシート(両面印刷,pp.110-111)を配布し、氏名欄に記名してもらった。

## 専攻科「教養」（略案）

講師：渡部昭男（鳥取大学）

講座名：「専攻科学生は子ども？それとも大人？」

日 程：① 2007年7月15日（日） 10：30～12：10

② 19日（木） 13：20～15：00

場 所：鳥取大学附属特別支援学校 高等部専攻科ルーム

社会生活力：第4部－社会参加する～モジュール16：情報，20：社会参加

第5部－自分の権利をいかす～21：障害者福祉制度，24：権利擁護

目 標：専攻科の2年間は，社会的な地位を未成年から成年へと変化させていく重要な期間である。中には，20歳の誕生日を迎えて，すでに成人の学生もいる。「子ども－大人」の区別に生物学的指標・社会的経済的指標・心理的指標などがあることを学ぶ中で，生物学的にはすでに「大人」だが，社会的経済的にはまだ「子ども」である自分自身に気づいてほしい。その上で，どのように「成人」を迎えるのか，「成人」になったらどのように振る舞うべきなのかを考えるきっかけとして，特に選挙権（投票権）及び年金受給について学ぶ。

## 概 要：

## ○7月15日（日）参観日「私は 子ども？大人？」

準備物－渡部：4コマ漫画、ワークシート。

10：00～ティータイム～授業を前にお茶を一緒に楽しむ

10：30～12：10

- ・自己紹介～1年生の5人とは初めての授業なので，自己紹介をしてもらう。
- ・頭の体操～4コマ漫画 朝日新聞「ののちゃん」・日本海新聞「ゴキゲンさん」  
面白い漫画を選び，面白い理由を発表する＝面白さの共有
- ・ワークシート～私は子ども？大人？  
子どもではない専攻科生 でも大人でもない部分もある  
子ども－大人  
未成年－成年（成人）
- ・子どものままでいたい？大人になりたい？

## 次回までの課題

- \*参議院選挙のことをお父さんやお母さんに聞いてみよう
- \*参議院選挙に関係したものを探して持ってこよう（新聞記事や公報など）

## ○7月19日（木）『20歳＝成人』になると何がどうかわるの？～選挙権&amp;年金受給～

準備物－学生：聞いてきたこと・調べてきたこと。

渡部：ワークシート，選挙・年金に関する資料。

13：20～15：00

- ・聞いてきたこと・調べてきたことの発表
- ・選挙権（投票権）について
- ・年金受給について

専攻科「教養」(ワークシート) 2007年7月15日(日) 10:30~12:00(表面)  
 講座名:「専攻科学生は子ども?それとも大人?」  
 その①~「私は 子ども?大人?」 講師:渡部昭男(鳥取大学)

10:30~自己紹介をしよう

名前	
----	--

10:40~頭の体操「4コマまんが」  
 何番の漫画が面白いですか  
 その理由を発表しよう

( )
-----
( )

11:00~私は 子ども?大人?

①男子一家族で外出した時にお母さんと一緒に女子トイレに入っても 女子一家族で外出した時にお父さんと一緒に男子トイレに入っても よい わるい わからない	
②バスの運賃は? 大人 子ども わからない	③列車の運賃は? 大人 子ども わからない
④学校に自転車でも よい わるい わからない	⑤学校に私服(自由な服)でも よい わるい わからない
⑥お酒を飲んでも よい わるい わからない	⑦タバコをすっても よい わるい わからない
⑧オートバイの二輪免許の試験を受けて よい わるい わからない	⑨自動車の普通免許の試験を受けて よい わるい わからない
⑩7月29日の参議院選挙の投票に 行ける 行けない わからない	⑪障害基礎年金の申請が できる できない わからない
⑫大好きな人と結婚することを親の許可なしに決めることができる できる できない わからない	

11:40~大人になりたい? 子どもでいたい

はやく大人になりたい 半分半分くらい ずっと子どもでいたい わからない
理由

<sup>じかい</sup> \* 次回 7 月 1 9 日 (木) 「<sup>きょうよう</sup> 教養」<sup>かだい</sup> までの課題 忘れずに持ってきて下さいね。 (裏面)

○ 7 月 2 9 日の<sup>さんぎいん</sup> 参議院選挙<sup>せんきょ</sup> について、<sup>とう</sup> お父さん・<sup>かあ</sup> お母さんと<sup>かんが</sup> 考えてみよう

① <sup>せいとう</sup> どんな政党がありますか？ <sup>おも</sup> 主な政党の<sup>なまえ</sup> 名前を<sup>いく</sup> いくつか<sup>か</sup> 書けるようにしましょう。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

② <sup>とっとり</sup> 鳥取選挙区<sup>せんきょく</sup> に<sup>りっこうほ</sup> 立候補している人は？ <sup>なまえ</sup> 3 人の<sup>せい</sup> 名前(姓)を書けるようにしましょう。

(1)

(2)

(3)

③ <sup>せいじ</sup> どんな政治をしてほしいですか？ <sup>はな</sup> ～話しあって<sup>きぼう</sup> いくつか希望を書いてみましょう

(1)

(2)

(3)

④ <sup>とうひょう</sup> 投票するとしたら<sup>なに</sup> 何という<sup>しよ</sup> 投票所ですか？ <sup>しょうがっこう</sup> 小学校などの名前を書きましょう。

⑤ 7 月 1 9 日の授業に<sup>も</sup> 持って来るものを<sup>そうだん</sup> 相談して<sup>き</sup> 決めましょう。

(1)

(2)

⑥ 7 月 1 9 日の授業で<sup>おし</sup> 教えて<sup>ほ</sup> 欲しいことがあれば書きましょう。

(1)

(2)

「導入・その2」は「頭の体操」(10:40~11:00)である。4コマ漫画(日本海新聞「ゴキゲンさん」、朝日新聞「ののちゃん」)の計8作品を複写したものを配布し、面白いと感じた1~2作品を選び、その理由を書き留めた上で発表してもらった。4コマ漫画の観賞には、①4コマ漫画の面白さを自分なりに感じ取って欲しい、②感じ取った面白さを独り占めせずに友達に伝えられるようになって欲しい、③友達の発表を聞いて友達が感じ取った面白さを共有する楽しさも体験して欲しい、④4コマ漫画をきっかけにして専攻科生の時から新聞を読む楽しさを味わって欲しい、という願いを込めている。実際、4コマ漫画を読み上げる際の声色や身振りなどの工夫が参観する保護者を含めて笑いを誘い、自分なりに感じ取った面白さが友達や参観者に伝わった時、逆に友達の感じ取った面白さが理解できた時には共感が教室中に広がった。

「展開・その1」は「私は子ども?大人?」(11:00~11:40)である。以下の7つの括りに区切りながら、設問に対する3択による回答をまずワークシートに記入させ、次に発表し合って意見交換する方法を進めた。

設問①：家族で外出した時にお母さん(お父さん)と一緒に女子(男子)トイレに入っても…?

身体的な大人への変化を前提に、外出時に親と一緒に異性用トイレに入れるかという設問である。8人全員が「わるい」と答えた。

設問②③：バス(列車)の運賃は…?

成年を迎えていなくても「大人」扱いされる機会は多い。身近な例として、公共交通機関の運賃を取り上げた。定期券通学者のうちの2名はバスについて「わからない」と回答したが、他は「大人」との答えであった。発言を求めると、「中学(部)生から大人の運賃だった」という答えがまず返ってきた。さらに、「小学校(部)6年生の時に変わった」という記憶の確かな者もいた。そこで、「12歳から大人運賃の扱いである」ということを再確認した。

設問④⑤：学校に自転車で(私服で)きても…?

専攻科生になると、校内で行う自転車検定に合格すると自転車通学が許される(サイクリング用の格好いいヘルメット着用で通学する者もいる)。また、制服(標準服)がなくなり、自由な服装を楽しむこともできる。校内での扱いにおける専攻科生の特権について尋ねた設問である。自転車に関しては遠距離の2名が「わるい」または「わからない」と回答した。服装のおしゃれは本科生からみると憧れでもあり、私服についてはさすがに全員が「よい」の答えであった。

設問⑥⑦：お酒を飲んでも(タバコをすっても)…?

この設問からは、法的な意味での大人扱いについて尋ねている。まずは、「20歳までは駄目よ」と言われることの多い事項として、飲酒と喫煙についてである。未成年の7名全員は「わるい」の答えであった。既に成年を迎えたAさんのみが「よい」かと思いきや、「わからない」との選択であったので指名すると、「飲む(吸う)か飲ま(吸わ)ないかは、わかりません」という誠にもっともな発言であった。

設問⑧⑨：オートバイの二輪免許(自動車の普通免許)の試験を受けて…?

運転免許への興味・関心の有無で回答がばらついた。道路交通法上は「16歳以上」で二輪免許・原付免許、「18歳以上」で普通免許が取得できることを確認した。専攻科生は運転免許取得にも挑戦できることを伝えると、数名が名乗りを上げた。

設問⑩⑪：7月29日の参議院選挙の投票に(障害基礎年金の申請が)…?

マスコミで報道される選挙の方が「行ける」「行けない」の正答率が高く、情報の少ない年金に



関しては「わからない」が大半を占めた。既に成年を迎えた A さんは、堂々と「選挙に行ける」「年金の申請ができる」と答えた。専攻科生の間に 20 歳を迎えて、投票や年金申請ができるようになることを皆で確認した。

設問⑩：大好きな人と結婚することを親の許可なしに決めることが・・・？

青年期にある専攻科生は、男女交際や結婚への関心も高い。この講座の直前には、「恋愛についてドラマをつくろう」が「教養」の授業の一環として組まれている。3 択の回答は、「できる」「できない」「わからない」に割れた。そこで、民法上は女が 16 歳以上、男が 18 歳以上で婚姻をすることができるが、未成年の場合は父母の同意（父母の一方の同意でも可）を必要としていることを伝えた。すると、大きく二つに分かれる意見が出された。一つは、「反対されるから、親に言いたくない（知らせたくない）」である。これに対して、「反対されても、やっぱり親には言った方がよい」「親からも祝福されて結婚したい」という発言であった。専攻科生の内面の多様さやそれを素直に表現して意見交換できる姿に、参観している保護者も感心していた。

授業の終結に向けて、「展開・その 2」は「大人になりたい？子どもでいたい？」（11:40～12:05）とした。「大人になりたい」「半分半分くらい」「子どもでいたい」「わからない」の 4 択でまず回答を求めると、「大人になりたい」が 5 名、「子どもでいたい」が 1 名、「わからない」が 2 名であった。次に、自由記述に基づいて意見交換を行った。

回答「大人になりたい」派：

「早く大人になりたいしけっこんがしたいから。自由になれるから」（女子）、「はやく大人になりたい。子供みたいにはなりたくない。大人になったら一〔一人〕ぐらしができるから」（女子）、「一言でいうと『自由になれる』から」（男子）、「いっぱいあるから」（男子）、「それはとうぜんなことですよ」（男子）という理由であった（〔 〕内は筆者による補足、以下同様）。

回答「子どもでいたい」派：

「大人社会でやっていけるかが心配です」（男子）という理由であった。

回答「わからない」派：

「子どもと大人のくべつがわからない」（女子）、「大人と子ども〔が〕どちらがうのが〔か〕あんまりわかりません」（女子）という理由であった。

文面だけではニュアンスを正確に掴むことは難しいが、筆者の観察によれば、「子どもでいたい」派は深く考えて内面が揺らんでいるのに対して、「大人になりたい」派は大人への憧れが先行して能天気であった。「子どもの方が自由で気楽」という発言も出たので、突然ではあるが参観者に「大人になると自由ですか？」と尋ねてみた。意見交換が参観者との間でも広がった。

「まとめ」（12:05～12:10）として、ワークシートの裏面を示しながら、次回までの宿題（参議院選挙について）を指示した。

### 3)ー2. 「20 歳＝成人になると何がどうかわるの？」（7 月 19 日実施）

第二次の「20 歳＝成人になると何がどうかわるの？」は、振替休日を挟んだ 4 日後の午後に実施した。第一次の終結において、大人と子どもの「区別」「違い」が分からないという疑問が出されていた。それは、第一次では大人扱いの多様さを元に、「大人でもない子どもでもない青年期＝専攻科生」というアプローチを採ったためと思われる。そこで、第二次では「20 歳＝成人（成年）」を基準に据えて迫ることにした。

「導入・その 1」は、前回と同様に 4 コマ漫画を使った「頭の体操」（13:20～13:50）である。

「導入・その2」は、「復習をしよう」(13:50~14:00)である。「身体はすでに『大人』。そして、世間からも『大人』の扱いをされることが多い」という事例として、年齢順に「バスや列車の運賃は『大人』料金=12歳~」「オートバイの二輪免許の試験が受けられる=16歳~」「自動車の普通免許の試験が受けられる=18歳~」であることを押さえ直した。専攻科生は全員がこれらの年齢を越えている。しかしながら、専攻科生の中で「20歳=成人」になったのはAさんのみであり、他の6名は未成年であることを知らせた。そして、「『成人』になると、お酒を飲んでもよいし、タバコをすってもよい」「『成人』になると、結婚することを親の許可なしに決めることができる」ということを再確認した。

「展開」(14:00~15:00)には、「『成人』になると、『自由』がふえる。でも責任や危険をともなっています」という趣旨から、二つの話題を用意した。すなわち、「7月29日の参議院選挙の投票に行ける→投票する責任、選挙違反の危険」及び「障害基礎年金の申請ができる→年金をうけとる責任、盗まれる危険」である。本題に入る前に、まず「『成人』にはいつなる」のかについて、「20歳の誕生日の前日」であることを知らせた(「年齢計算ニ関スル法律」)。つまり、誕生日の前日が「満年齢を更新する日」であり、誕生日は「満〇歳(20歳)と1日」という計算なのである。

「展開・その1」は、「参議院選挙の話」である。

調べてきたことを発表しよう：

全員が、宿題を忘れず仕上げていた。また、選挙公報や新聞を持参した者もいた(鳥取県選挙管理委員会の発行した選挙公報の呼びかけは「オトナの一票、明日への一步」である)。専攻科生が政治に参加していくには、個々人がその実生活や将来生活と深く切り結んだ願いや要望を持つことが不可欠であると考えた。そこで、準備課題のうち、「③どんな政治をしてほしいですか?」と「⑥7月19日に教えて欲しいことがあれば書きましよう」を以下に紹介する。

- ・③「世界がへいわになってほしい(父)。ふせいがいい政治(母)。ねん金をもっとふやしてほしい(私)。」、⑥「じがかげなかつたりよめない人は、どのようにしてとうひょうするのですか。」
- ・③「年金をたくさんほしい。グループほうむをたくさんつくってほしい。私達の働く場所をつくってほしい。」、⑥「選挙でどんな人を選べばいいか。」
- ・③「病気の人やお年よりの人も安心して暮らせるようにしてほしいです。戦争のない平和な国にしてほしいです。子供達が安心して外で遊べるような安全[な]よのなかにしてほしいです。」
- ・③「年金問題を早く終わらせてほしい。」
- ・③「障害者に対する安定したしゅうしょく。」
- ・③「弱い人の味方。くらしやすい。せんそうのない平和なよの中。」、⑥「当ひょう[投票]のしかた。きいつ前当よう[期日前投票]のしかた。」
- ・③「せんそうがない平和な世の中。しょうがいしゃのことをかんがえるせいじ。こどもの事をかんがえるせいじ。」
- ・③「介護する所をふやしておじいさん、おばあさんが困[困]らないようにしてほしいです。じしんなどがおきてしえんできるようにする、助けてあげる。障害がある人でも仕事ができたりする社会がいいです。」、⑥「年金は将来困[困]らないためにもらえるお金ですか。大人になるとタバコやお酒をしたくなるのは何ですか。」

政治教育は親の教育権及び家庭教育の自由に属する重要な事項であり、宿題を契機に親子や家族で「大人の会話」ができることを期待していたが、第一次の授業が参観日と重なった効果もあつてか、記述を見る限りかなり真面目に話し合った様子うかがえる。

専攻科「教養」(ワークシート)

2007年7月19日(木) 13:20～15:00

講座名：「**専攻科学生は子ども?それとも大人?**」

その②～「**20歳=成人になると何がどうかわるの?**」

講師：渡部昭男(鳥取大学)

なまえ 名前	
-----------	--

13:20～**頭の体操「4コマまんが」**  
 何番の漫画が、なぜ、面白いですか。  
 その理由を発表しよう

( )
( )

13:50～**復習**をしよう

○身体はすでに「大人」。そして、世間からも「大人」の扱いをされることが多い。

○バスや列車の運賃は「大人」料金＝(          歳～)
○オートバイの二輪免許の試験が受けられる＝(          歳～)
○自動車の普通免許の試験が受けられる＝(          歳～)

○しかし、◇◇さんをのぞいて、まだ「20歳=成人」ではない。

○「成人」になると、お酒を飲んでもよいし、タバコをすってもよい。
○「成人」になると、結婚することを親の許可なしに決めることができる。

14:00～「成人」になると、「自由」がふえる。でも、責任や危険をとまっています。

○7月29日の参議院選挙の投票に行ける → 投票する責任、選挙違反の危険
○障害基礎年金の申請ができる → 年金をうけとる責任、盗まれる危険

①「成人」にはいつなる → 20歳の誕生日の(          )

②参議院選挙の話

- ・調べてきたことを発表しよう 人物と政策をよく調べて「自分で決める」
- ・選挙の仕組みと投票の方法 鳥取選挙区 比例代表
- ・選挙違反に気をつけよう 買収罪 選挙妨害罪
- ・投票は秘密です 「〇〇さんに投票してね」→「自分でよく考えます！」  
「誰に投票したか教えてね」→「内緒です！」

③障害基礎年金の話

- ・20歳の時の診断書
- ・1級(月          円) 2級(月          円) 3級(なし)
- ・偶数月に振り込み(2か月分) 郵便局や銀行の利用
- ・盗まれないように 年金証書の保管 年金の管理 家計簿

### 選挙の仕組みと投票の方法：

次に、参議院選挙に関する投票には、選挙区選挙（鳥取県選挙区の候補者の名前を書く）と比例代表選挙（比例代表の候補者の名前かまたは政党等の名称を書く）の2種類があることを知らせた。政党名や候補者名は、宿題の課題①②できちんと書き上げてきていた。また、各自の投票所についても課題④で予習してきていた。

なお、質問のあった「点字投票・代理投票」及び「期日前投票」についても簡単に教えた。また、1期生の3名には前年度の授業で鳥取市選挙管理委員会を訪ねた際に、投票所に掲示する候補者氏名などの漢字には振り仮名がつけてあることを教わったのを思い出させた。

### 選挙違反に気をつけよう：

ところで、選挙違反に巻き込まれないよう、予備知識を持っておくことも大切である。気軽に買収に応じてしまうことや、そそのかされて選挙ポスターを破り捨てること等も罪になることを知らせた。

### 投票は秘密です：

そこで、既に成人に達したAさんに前に出してもらって、寸劇を試みた。

筆者 「食べ物でAさんの好きなものは何ですか？」

Aさん 「○○です。」

筆者 「Aさん、○○を食べさせてあげるので、今度の選挙はぜひ△△さんに投票して下さい。」

Aさん 「(気の優しいAさんは思わず) はい、いいですよ。」

寸劇を見ていた他の専攻科生からは、「ダメ～!」「いけない!」の声が上がりました。お金や贈り物、飲食の接待などと引き換えに投票を依頼したり、引き受けることは罪になることを伝え、こういう時にはきちんと断るべきことを知らせた。しかし、候補者の訴えや政党等の政策をしっかりと聞くことは大切であり、その場合にも「自分でよく考えて決めます」とか「誰に投票する(した)かは秘密です!」と答えるとよいことなどを伝えた。

「展開・その2」は、「障害基礎年金の話」である。このテーマについては、さらに聞きたくなって、より専門的なゲスト（障害基礎年金などに詳しい専門職員）を招く次の活動に繋げるべく、意図的に揺さぶりをかけることに努めた。すなわち、20歳になったら申請できるのだが、その時の障害による不具合によって、認定は1級（月8万円台）、2級（月6万円台）、3級（なし）に分かれることを知らせた。場合によっては、年金がもらえない恐れもあり、専攻科生にとっては切実な問題である。また、年金をもらう場合にも、年金証書や預金通帳・カードの保管、郵便局や銀行の利用、家計簿などによる金銭管理などに気を付けないといけない。その際、親に頼まずに自分一人できるように支援してくれるサービス（地域福祉権利擁護事業・日常生活自立支援事業）があることを知らせた。

「年金のことについてさらに詳しく知りたかったら、『専門家をゲストに招いてもっと勉強がしたい』と担任の先生に皆でお願いしてみして下さい。」と促して、締め括りとした。

## Ⅲ. 2008年度における「教養」の実践

### 1. 2008年度における高等部専攻科の概要

#### 1) 教育目標

2008年度における専攻科の教育目標は、2007年度と同様である。

## 2) アドミッションポリシー

「専攻科学校公開」（2008年9月2日）の説明資料では、アドミッションポリシーについて、2007年度にあった「ひとり暮らしもできるような力を身につけたい」が削除されて9項目から8項目になり、記載も下線を付したように若干の簡略化ないし修正がみられた。

- 「高3卒業後も、社会自立へ向けて もっとゆっくりと豊かに学びたい……」
- “自分らしさ”をみつけ、もっと自分に自信をつけてから、社会に出たい
  - もっといろいろなことに チャレンジしてみたい
  - 社会生活の仕方を学び、くらしを豊かにする力をつけたい
  - いろいろな職場体験をして、自分に合った仕事を自分でみつけない
  - 人とのかかわりを広げ、コミュニケーションの力を高めたい
  - 楽しみを広げ、余暇の時間が上手に使えるようになりたい
  - 調べたことを研究して、それをまとめ、発表してみたい
  - グループホーム体験で、家族と離れ、仲間と暮らす学習がしてみたい

## 3) 教育課程と週時程表

週時程表（表2）については、火曜日と木曜日との入れ替えがなされ、自分たちで昼食づくりを行う「くらし（食）」が火曜午前に移動している（表中の変更箇所の下線を付した）。

教育課程は、2007年度と同様に「くらし」「労働」「余暇」「教養」「研究ゼミ」の5領域で編成されているが、題材に若干の変更があり、「くらし」では「おしゃれ講座」の代わりに「鳥大合宿」が入り、「教養」では「歴史」「俳句」の2つが追加されている。

表2 高等部専攻科における週時程表及び5領域の教育課程（2008年度）

	月	火	水	木	金
8:55	登校時間				
10:00	ミーティング・くらし（健）				
10:30	くらし（ふれあい）				
	くらし	<u>くらし（食）</u>	研究ゼミ	<u>労働</u>	教養
12:10	昼食（木・自炊）・歯みがき・休けい				
13:20	<u>労働</u>	<u>余暇</u>	余暇	<u>くらし／労働</u>	<u>くらし</u>
15:00	清掃・ミーティング			清掃・ミーティング	
15:15					

## 4) 人員構成

1期生の3名が卒業し、2期生の2年生が5名（内部進学2名・他3名、男2名・女3名）、3期生の1年生が3名（内部進学2名・他1名、男1名・女2名）の計8名である。

担任2名（男女各1名）、教頭兼専攻科主任（女1名）、「くらし（食）」への教務主任（女1名）の応援などの体制は、2007年度と変わっていない。

## 2. 「住みたい『家』で快適に暮らそう」(2008年7月4・15日)

### 1) 「教養」の年間題材配当計画

2008年度における年間題材配当計画は、2007年度と同様である。筆者が任されたのは、2007年度に同じく「7月—大人になるとは」の単元であり、7月4日と15日の2回計画である。

### 2) 授業の計画—指導案の作成

前年度に受講した2年生を含む2学年複式編製の学級であるので、2007年度とは異なる題材で「大人になるとは」に迫ることにした。今回、筆者が新たに選定したのは「住まい」である。授業実施にあたり、これまでと同様に「講座名、日程、場所、社会生活力、目標、概要」からなる指導案(次頁に掲載)を作成した。

まず、目標は以下のように設定した。

〔目標〕専攻科学生は「学校から社会へ」「子どもから大人へ」の二重の移行期にある。今回は「住まい」をテーマに、成長につれて殻をかえるヤドカリのごとく、卒業後の夢として「快適に暮らせる家」をイメージする力をつける。

上記の目標を定めるに際して、二つの背景があった。一つ目は、2007年度の授業の際に、「大人になりたい」理由として「結婚がしたい」「一人暮らしができる」が挙げられていたことである。専攻科生の中には、卒業後に親元から離れたり、結婚することをイメージしている者も少なくない。二つ目は、筆者自らを振り返ってみても、「子どもから大人へ」の移行やこれまでの人生の中で、「住まい」の変化はかなり大きな位置を占めてきたことである。すなわち、私事になるが、中学生(12歳)になって初めて「自分の部屋」を与えられ、大学進学(18歳)に伴って親元から離れて下宿暮らしをし、就職と同時に結婚して宿舎のアパートに入り(27歳)、子どもが増えて借家に移り(34歳)、やがて持ち家=マイホームを得て(38歳)、今に至っている。まるで、成長につれて住み替えるヤドカリのようである。この授業を通して、専攻科生には、専攻科卒業後の「暮らしと住まい」をイメージする力を育てて欲しいと思ったのである。

「社会生活力プログラム」に関しては、「第2部：自分の生活をつくる=モジュール7.住まい」に絞った。ここでも、授業展開においては「第3部：自分らしく生きる=モジュール11.自分と障害の認識、12.コミュニケーションと人間関係」を意識して進めた。

授業の構成は、これまでと同様に、「導入=自己紹介・頭の体操、展開=ワークシートを使った学習、まとめ=本日のまとめ・次回の予告」という展開パターンである。

### 3) 授業の実施

#### 3)―1. 「住みたい『家』—ヤドカリと私」(7月4日実施)

筆者と3期生の3名は初対面なので、前年同様に、10時の「くらし(ふれあい)」から参加した。お茶を一緒に楽しんだ後に、第一次「住みたい『家』—ヤドカリと私」の授業開始である。2年生に欠席が1名あり、受講した専攻科生は計7名(1年生3名・2年生4名、男3名・女4名)、参加したスタッフは担任1名、専攻科主任1名であった。

ワークシート(pp.120-121)を配布し、「導入・その1」の「自己紹介」(10:30~10:40)、「導入・その2」の「頭の体操」(10:40~11:00)までは、前年同様の進行である。2年生は声色などの発表時の工夫が前年度よりも進化発展しており、その工夫を1年生が楽しみ、さらに模倣しようと努める等、複式編制の特色が認められた。

専攻科教養講座

講師：渡部昭男（鳥取大学）

講座名「住みたい、『家』で快適に暮らそう」

日 程：① 2008年7月 4日（金）10：30～12：10

② 15日（火）13：20～15：00

場 所：鳥取大学附属特別支援学校 高等部専攻科ルーム

社会生活力：第2部－自分の生活をつくる～モジュール7：住まい

目 的：専攻科学生は「学校から社会へ」「子どもから大人へ」の二重の移行期にある。今回は「住まい」をテーマに、成長につれて殻をかえるヤドカリのごとく、卒業後の夢として「快適に暮らせる家」をイメージする力をつける。

概 要：

## ①7月 4日（金）「住みたい『家』－ヤドカリと私」

準備物－渡部：4コマ漫画、ワークシート、絵や写真、住宅情報など

10：00～ティータイム～授業を前に一緒にお茶を楽しむ

10：30～

- ・自己紹介～1年生の3人とは初めての授業なので、自己紹介をしてもらう。
- ・頭の体操～4コマ漫画 「ののちゃん」「ゴキゲンさん」  
面白い漫画を選び、面白い理由を発表する＝面白さの共有
- ・ワークシート  
ヤドカリは成長と共に「家」をかえる  
渡部の場合を紹介する  
インタビュー X先生、Y先生、Z先生、・・・
- ・成長に合わせて「住まい」の変化があることを知り、卒業後に「住みたい『家』」を語り合う

## 次回までの課題

- \*いま住んでいる「家」について調べてこよう。
  - ①「持ち家」かな、「借り家」かな？ 「借り家」の場合はその家賃？
  - ②どんな部屋があるかな＝「家」の見取り図は？
- \*お父さんやお母さんの「住みたい『家』」について聞いてこよう。
  - ①お父さん
  - ②お母さん

## ②7月15日（火）「快適に暮らす－様々な『家』について知ろう」

準備物－学生：聞いてきたこと・調べてきたこと。

渡部：ワークシート、住まいに関する資料など。

13：20～

- ・聞いてきたこと・調べてきたことの発表
- ・「住まいの種類」とその特徴を知ろう  
グループホーム、自宅、施設や病院 など  
人数、家族、就労、職員、個室、ヘルパー、家賃、調理、洗濯、掃除、ゴミ など





(裏面)

## 調べてこよう (次回7月15日火曜までに)

### ① どんな部屋があるか調べてみよう

できれば見取り図を書いてみよう

### ② お父さん・お母さんに尋ねてみよう

ア) 今の「家」について

問1 「集合住宅 (アパートなど)」かな 「一戸建て」かな

問2 「持ち家」かな 「借り家」かな

イ) 今の「家」で気に入っているところ

ウ) 今の「家」で不満なところ・快適にしたいところ

エ) あなたが専攻科を卒業したら、「誰と、どんな家に住んで欲しい」と思っていますか？

「誰と」

「どんな家に」

「展開・その1」は、「ヤドカリと私=住みたい『家』」(11:00~11:40)である。

#### 設問①ヤドカリを知っていますか？

まず、ヤドカリを知っているかを尋ねた。幾つか発言を求めた後に、インターネットからとったヤドカリの画像を数点示し、イメージを共有した。

次に、ヤドカリを漢字で書いてもらった。感心したのは、この問いかけに対して専攻科生が個々に、国語辞典や電子辞書を調べたり、携帯電話の文字変換機能を使って取り組んだことである。手元に辞典・辞書がない者は、クラス備品の辞書を使ったり、隣の人に借りる等している。そして、「宿借り」と書くことが分かった時には、嬉しそうな表情や安堵した表情が見られた。また、辞典・辞書の記載内容を読み上げ紹介してくれる者も登場した。普段の授業の中で、分からないことは自ら調べて確認する、分かったことを発表して共有するという学習活動が定着していたのである。

さらに、「ヤドカリは英語で『ハーミット・クラブ』と言います。ゲームのキャラクターに出てきます。」と教えてくれる博識の者もおり、担任が和英・英和辞書を持ち出して綴りは「a hermit crab」であること、crabはカニ、hermitは隠者の意味であることが確認された。様々な学びが教室中に広がって、実に愉快であった。

#### ②渡部の場合／③X先生の場合／④Y先生の場合：

人間もヤドカリのように成長とともに住まいを替えていくことを、身近な大人を事例に知ってもらうことにした。まず、先に述べたような筆者のケースを紹介した。特に、初めて自分の部屋をもらった時の喜び、親元から離れて一人暮らしした時の不安と誇らしさ等は、専攻科生とも大いに共有できた。続いて、専攻科生の希望順に、専攻科主任、担任が自らのケースを発表した。そして、質疑も交えながら、3つのケースをワークシートに書き込ませた。

授業の終結に向けた「展開・その2」は、「大人になったら=私の夢」(11:40~12:05)とした。

#### 活動①ワークシートへの記入：

専攻科生である今と卒業後とに、「誰と、どんな家に」暮らしているかを記入してもらった。ワークシート記録が手元にある5名について記す(遠距離通学などの2名は、グループホーム、親戚の家から通っている)。

- ・今「家族、自分の部屋」→卒業後「かれと、アパート」(以下、同様)
- ・「家族、自分の部屋」→「一人、グループホーム」
- ・「家族(お父さん、お母さん、お姉さんの人、お祖母さん、ぼく)、自分の部屋」→「空欄、空欄」
- ・「3人と、グループホームにすむ」→「空欄、メゾニティーサンレイク [アパートの名前]」
- ・「しんせきの人、自分の部屋」→「1人で、1人ぐらし」または「結婚(好きな人と)、アパート(好きな人とくらす)」

なお、上記以外の1名は、現在妹と一緒にの部屋であり(それも良いのだが)、「静かになれる自分の部屋が欲しい」とも話していた。

#### 活動②アパート情報誌から希望物件探し：

次に、鳥取大学生向けに作成された「アパート情報誌」(ほぼワンルーム型でおおむね2~4万円台)を全員に配布し、情報誌から希望する物件を探すことにした。参加スタッフ(担任、専攻科主任)にも応援に入ってもらい、情報誌を読み取る支援を行ったり、希望物件を探す相談に乗ってもらった。そして、最後には、希望物件とその理由を発表し合った。以下に、2例を挙げる。

- ・希望物件「メゾニティーサンレイク」/理由：夜食に「鍋焼きうどん」が食べたい。アルミホイルの「鍋焼きうどん」は電磁調理器などではダメで、ガスコンロがいる。ガスコンロがあるのは、

このアパートだけだ [ガスコンロの物件は限定されている]。また、ケーブル回線でインターネットが自由に使える。

- ・希望物件「コーポエレガント」/理由：安いところ。絵を描くのが好きなので、絵を描いたり飾っておくアトリエがほしい。小さな部屋がもう一つあるから。

「まとめ」(12:05~12:10)として、ワークシートの裏面を示しながら、次回までの宿題を指示した。

### 3)ー2. 「快適に暮らす一様な家について知ろう」(7月15日実施)

第二次の「快適に暮らす一様な家について知ろう」は、2週間近く後の午後実施した(欠席が1名あり、受講生は計7名)。間が空きすぎたためか、ワークシートを忘れる者が続出し、担任がワークシートの宿題面を急遽複写して配布し、授業前の昼休みに記入してもらおう対応がなされた。

まず、第二次のワークシート(次頁に掲載)を配布した。この第二次の活動については、『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル』から多くの示唆を得た。

「導入・その1」は、同様に「頭の体操」(13:20~13:50)である。続く「導入・その2」は、『調べ学習』の発表(13:50~14:20)である。

#### 課題①どんな部屋があるか調べてみよう

見取り図が書けた者は3名であり、他の4名は部屋の名前を書き上げていた。どんな部屋があるかを一つずつ挙げてもらうと、「リビングルーム・居間・お茶の間、キッチン・台所、浴室(風呂場)・洗面所・トイレ、玄関、テレビの部屋・パソコンの部屋、仕事場、寝室、自分の部屋・妹と一緒にいる部屋・姉の部屋・親の部屋・祖母の部屋、押入・廊下・階段、ベランダ」等々が出された。

#### 課題②お父さん・お母さんに尋ねてみよう

ワークシートを忘れた者が多かったので、この課題は簡単に済ませた。本来は、専攻科卒業後の「誰と、どんな家に」について、自身の希望と父母の希望との相違を深めてみたかったのである。

「展開」(14:20~14:50)には、「大人になったら住むかも知れない様々な『家』について知ろう」を据えた。専攻科生は、教科書として『自立生活ハンドブック11 ひとりだち』(全日本手をつなぐ育成会、2001)を普段から使用している。その本の「1 住まい」には、「通勤寮・グループホーム・アパートでの暮らし」が解説されている。鳥取県には通勤寮が西部圏域に1カ所あるが、専攻科生が使用する可能性は地理的に低いことから、学習対象より通勤寮を除いた。そして、ワークシートでは「自宅(両親の家)・グループホーム・アパート」の3種類を採り上げ、教科書も参考にしながら、「誰と住むか、全体の人数、自分の部屋(個室)、世話人さん、家賃、調理、洗濯、掃除・ゴミ出し」について記入させた。なお、専攻科生は「くらし」領域の活動としてグループホーム体験も済ませている。

記入を終えて、卒業後の住まいの希望を再度尋ねると、両親との同居や世話人さんが支援してくれるグループホームの希望は少数であり、圧倒的にアパートであった。記入作業によって気づいたことであるが、グループホーム利用料の家賃部分は鳥取県の場合3万円程度であり、アパートの家賃に比して決して安くはない。調理や金銭管理などが自分でできたり、地域福祉権利擁護事業の支援を受けてできれば、アパート暮らし(友達とのルームシェアなどを含む)は「夢」に留まるものではない。

「まとめ」(14:50~15:00)として、「大人になったら住みたい『家』や『部屋』を絵(イラスト)にしてみよう」を取り組んだ。以下に、「住みたい家・部屋」についてのこだわり例を挙げておく。

- ・「ベランダ」=外が眺められて気持ちがいいから。

せんこうかきようようこうざ  
専攻科教養講座(ワークシート) 2008年7月15日(火) 13:20 ~ 15:00

こうざめい  
講座名「<sup>す</sup>住みたい『<sup>いえ</sup>家』で<sup>かいてき</sup>快適に暮らそう」  
その②~「<sup>く</sup>快適に暮らす-様々な家について知ろう」

こうし わたなべあきお とっとりだいがく  
講師: 渡部昭男(鳥取大学)

なまえ 名前	
-----------	--

あたまたいそう  
13:20~ 頭の体操「4コマまんが」  
なんぼんまんが おもしろ  
何番の漫画が面白いですか  
りゆう ほんびよう  
その理由を発表しよう

( )	
( )	

しらがくしゅう  
13:50~ 「調べ学習」の発表

おとな  
14:20~ 大人になったら住むかも知れない様々な「家」について知ろう

家の種類	自宅(両親の家)	グループホーム	アパート
誰と住むか			
全体の人数	人	約 人	人
自分の部屋(個室)			
世話人さん			
家賃	約 円	約 円	約 円
調理			
洗濯			
掃除・ゴミ出し			

おとな  
14:50~ 大人になって住みたい「家」や「部屋」を絵(イラスト)にしてみよう。

- ・「ベランダ（ウッドデッキ）のある2階建ての家」＝眺めが良いことと、風が入って涼しいから。
- ・「クローゼット」＝洋服を入れておしゃれを楽しみたいから。
- ・「TVのある洋室」＝好きな番組を観たいから。
- ・「アトリエのある家」＝絵を描いたり飾っておけるから。
- ・「カラオケやパソコンがありTF [トランスフォーマー] コレクションも置ける部屋」＝ゆっくり楽しみたいから。

授業を通して、住まいに関する将来の夢を広げることではできたとと思われる。その夢を実現するために専攻科生自身が卒業までにどのような力を養えばよいのか、一方で年金収入などとの関わりで個々に応じてその実現可能性の吟味を如何に進めるのか等が今後の課題となろう。

#### IV. 青年期の移行支援と「自分づくり」を支援する授業

##### 1. 青年期の拡張と移行支援の課題

動物の場合、子を産むことができる成体か否かの区分で足りる。その点、青年期というライフステージは文明を持つ人間に特有のものである。貴族や武家などの支配層には、一人前になるまでの教育期間や見習い期間が早い時代からあった。しかし、一般には児童労働を禁じて教育保障を行った「工場法」の成立を待たなければならない。すなわち、労働者の権利獲得運動の中で、大人の身体になっても労働を強制されない執行猶予（モラトリアム）期が誕生したのである。

科学技術が進歩すると、それを修得・継承するのにより長い教育期間を要する。戦後の日本においては、9年間の義務教育に加えて、高校の準義務化、高等教育の拡充（高学歴化・長学歴化）現象を産み、就労時期（年齢）は高卒（18歳）、短大卒（20歳）、大卒（22歳）、大学院卒（24歳以降）というように遅くなっている。一方で、栄養状態の改善などもあって、戦後における第二次性徴の若年化傾向も顕著である。「青年期の拡張」を示したのが、図1である。

すなわち、「身体的・生理的な大人」には早く達するが、「法的な大人」である成年＝20歳を越えても教育や訓練を受けるなどして、仕事に就かない期間が広がっている。また、就労して収入を得て「経済的な大人」にはなったとしても、往々にして「社会的・心理的な大人」への形成不全現象なども認められるところである。

とは言え、「青年期」は永らく健常者に独占されてきた。知的障害や発達障害のある者について、障害の重い者は「永遠なる子ども」として扱われ、一方で障害の軽い者は「手に職をつけて早く大人になること」が急かされ、「青年期」は「存在しない」か「必要のないもの」と考えられてきた。

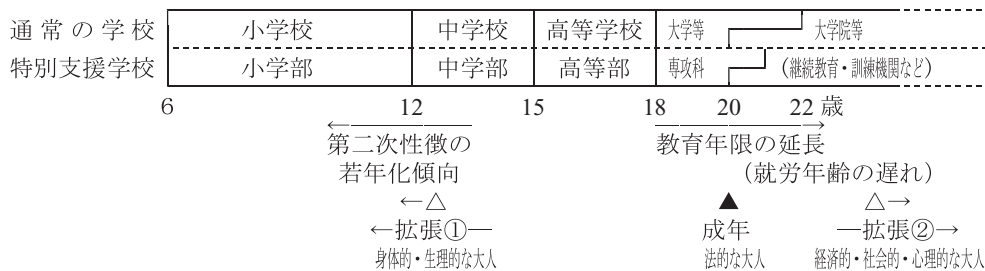


図1. 青年期の拡張（渡部昭男 2008）

しかし、ゆっくりと変容し、また自尊感情などにもつれを持ちやすいこの人たちにこそ、社会に参加したり、大人になって行く上での青年期の移行支援が必要なのである。

「学校から社会へ」「子どもから大人へ」という二重の移行は、決して瞬間的な移動ではない。第二次性徴を迎える思春期から20歳台半ば頃までにおよぶ営みであり、支援もおよそ十年にわたる継続的なものでなければならない。高等部専攻科はその一環に位置づく移行支援の教育機関である。その際、専攻科スタッフが主体となって「個別支援会議」を開催して進路予定先などと予め情報共有を行ったり、卒業後のアフターケアとして進路先と連携するという、移行のための環境整備も重要な移行支援機能である。加えて、専攻科生を移行の主体として形成するという教育機能自体も忘れてはならない。

## 2. 青年期らしい授業の在り方

鳥取大学附属特別支援学校の高等部専攻科における授業実践について、あらためて整理する。

### ○青年期らしい教育内容＝「段階別教育内容表」「社会生活力プログラム」を活用する

高等部専攻科に関して、学習指導要領は旧盲学校・聾学校（職業科専攻科）の教科及び科目の標準例を示すのみである。従って、旧養護学校の普通科専攻科の場合、高等部本科に準じて教育課程を編成することが多いが、学校現場の裁量範囲は極めて広い。

鳥取大学附属特別支援学校では開校当初より、小学部から高等部までを含めて、学習指導要領を参考にしながらも独自の教育内容表＝「段階別教育内容表」<sup>3)</sup>を作成し利用してきた。併せて、「社会生活力プログラム」で提示されている「5部門25モジュール」を参照している。

筆者の場合、「段階別教育内容表」を使い慣れないために、「社会生活力プログラム」のみを使用している。

### ○青年期らしい領域設定＝5領域で移行へいざなう

「くらし」「労働」「余暇」「教養」「研究ゼミ」の5領域で編成されている。学習指導要領に定められた高等部本科までの領域・教科の名称と全く違うことが、「本科と専攻科とは異なる」という押し出しになっている。この5領域は大人の活動をシンプルに区分・構成したもので、移行を分かりやすくイメージさせるとともに、専攻科生にとっては誇らしい響きを持っている。

### ○青年期らしい題材＝二重の移行に関わる事項を選ぶ

5領域で扱う題材は、「学校から社会へ」「子どもから大人へ」の二重の移行に関わる事項が多く選定されている（週時程表〔表1〕の注記を参照のこと）。例えば、「教養」における「食生活、新聞、金銭管理、性教育、選挙、年金、法律と福祉制度」は、大人になっての自立生活や社会参加・権利行使に直結している。また、2008年度に追記された「歴史、俳句」は、直結したものではないが大人の嗜みや生涯学習への導入に位置づく。

筆者が任されたのは2年連続で「大人になるとは」の単元（各2回分を一まとまりの「単元」と捉えた）であった。その際、2学年複式編制であることを考慮して、異なる「社会生活力」のモジュールを狙いながら、異なる題材で授業を組んだ。すなわち、2007年度が「選挙・年金」、2008年度が「住まい」であり、在学中に迎える法的成年や卒業後の住生活に密接に関わるものである。

### ○青年期らしいタイトル名＝憧れや自尊心を踏まえる

いずれの授業においても、該当の単元や各次の時間において何を学習するのかということ、分かりやすくかつ興味を引くよう心がけてタイトルに示さなければならない。専攻科の場合は加えて、青年期らしいタイトルでなければならない。ポイントは、大人や社会参加への憧れと、「大人になり

つつある」「自立生活や社会参加に向かいつつある」という自尊心を踏まえるということである。

2007年度は単元名を「専攻科生は子ども？それとも大人？」とし、第一次を「私は 子ども？大人？」、第二次を「20歳＝成人になると何がどうかわるの？」と定めた。いずれも疑問符をつけて示すことにより、専攻科生に問いかけるテーマを明示し、また謎解きの面白さを意図した。

2008年度は単元名を「住みたい『家』で快適に暮らそう」とし、第一次を「住みたい『家』ーヤドカリと私」、第二次を「快適に暮らす一様な家について知ろう」と定めた。卒業後の一人暮らしや仲間との共同生活、さらには結婚生活への憧れを育てることを意図した。

### ○青年期らしい授業の構成と展開＝「自分づくり」と関わらせる

鳥取大学附属特別支援学校は、学校教育目標として「楽しい学校生活の中で、『自分づくり』を基盤として、一人ひとりの力を精一杯伸ばし、働くことに喜びを持ち、社会の一員として豊かに生きる人間を育成する～『豊かな心を持ち、生活を楽しむ子』」を掲げている。「自分づくり」とは「他者との関係性における自我発達・自己形成の発達」を指し、実践研究を積み上げる中で既に「自分づくりの段階表」「自己運動サイクル」「実践創造サイクル」などを公表している。詳細は実践研究の成果をまとめた『「自分づくり」を支援する学校』<sup>4)</sup>に譲るが、専攻科では「社会への関心を持ち、様々な人とかかわりながら、積極的に社会へ参加しようとする青年～まずやってみよう 自分をみつめ 広い社会へとびだそう～」の目標の下に、青年期の「自分づくり」を支援する授業の創造を探究している。その際、担任団は「七転び八起きの自分づくり」「見守り支援」などを基本姿勢としている<sup>5)</sup>。

筆者が特別講師として「教養」を担当する場合も、青年期の「自分づくり」と関わった授業を意識した。まず、授業の構成を「導入＝一緒にお茶を楽しむ・自己紹介（第一次のみ）／頭の体操、展開＝ワークシートを使った学習、まとめ＝本日のまとめ／次回の予告（第一次のみ）」というように定型化し、見通しを持ち主体的に参加し易く配慮した。次に、授業の展開として、4コマ漫画を観賞する「頭の体操」では、「モジュール 12. コミュニケーションと人間関係」を意図しつつ、ユーモアやウィットを理解し共有する愉しさをベースにした遣り取りを心がけている。ワークシートを使った学習では、モジュール 12に加えて（例えば、分かり合う愉しさは「宿借り」の漢字表記の活動などでも認められた）、「モジュール 11. 自分と障害の認識」に迫ることを重視している。例えば、「子どもか、大人か？」「子どものままでいたいのか、大人になりたいのか？」「誰と、どんな家に住みたいのか？」など、揺さぶりをかけたり、将来をイメージすることを求めた。また、宿題には専攻科生と両親や家族との「大人の会話」を促す意図を込めた。なお、2学年複式編制には、1年生が成年を迎える2年生をモデルとしながら成長できるという特長点を認める。

### 追記

授業をともに創った専攻科の学生たち、「教養」の授業機会をいただいた山本恭子教頭兼専攻科主任、専攻科担任である本城睦子教諭及び谷口直紀教諭に、記して感謝を申し上げます。なお、本稿は平成 19～21 年度科学研究費補助金（基盤研究 (C) 19530872：養護学校高等部等の専攻科における教育の在り方―二重の「移行支援」に着目して―）による研究の一環に位置づく。

### 《注》

1) 関連した論考及び学会発表等は以下の通りである。

○論考

- ・渡部昭男(2006)「国公立養護学校『全国初』となる高等部専攻科の開設—鳥取大学附属養護学校の試み—」『障害者問題研究』34巻2号, pp.57-62。
- ・渡部昭男(2007)「鳥取大学附属養護学校の高等部専攻科における教育—2006年度における『教養講座』の実践—」『地域学論集(鳥取大学地域学部紀要)』4巻1号, pp.25-46。
- ・渡部昭男(2008)「障がい青年の移行支援教育—高等部専攻科の試み—」『教育と医学』56巻11号, pp.50-56。

## ○学会発表等

- ・渡部昭男(2006)「国公立養護学校『全国初』となる高等部専攻科の開設—鳥取大学附属養護学校における移行支援及び青年期教育の試み—」(2006年9月日本特殊教育学会第44回大会[群馬大学]ポスター発表PA5-39)。
  - ・渡部昭男(2007)「鳥取大学附属養護学校の高等部専攻科における教育—2006年度における『教養講座』の実践—」(2007年9月日本特殊教育学会第45回大会[兵庫教育大学]ポスター発表P2-49)。
  - ・渡部昭男・本城睦子・谷口直紀(2007)「鳥取大学附属特別支援学校における専攻科教育の試み」(2007年11月日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究会第26回大会[熊本大学]A—4分科会)
  - ・渡部昭男(2008)「養護学校高等部等の専攻科における教育課程の特色」(2008年10月日本特別ニーズ教育学会第14回大会[大阪市立大学]自由研究発表Ⅷ)。
- 2) 奥野英子・他(2006)『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル—知的障害・発達障害・高次脳機能障害等のある人のために—』中央法規。
  - 3) 学習指導要領に示された各領域・教科の内容等を「自立化・社会化・表現化・職業化」の4分野に括り直し、「1段階—0～2歳, 2段階—2～3歳, 3段階—3～4歳, 4段階—4～5歳, 5段階—5～7歳, 6段階—7歳～」の6つの段階に応じて, 教育内容を配列したものである。1979年の初版以降, 1981・1984・1998年に改訂されている。専攻科が開設されて以降, 「6段階—7～9歳, 7段階—9歳～」というように段階を追加する見直しが進められており, 2008年度中には最新版が出される予定である。
  - 4) 渡部昭男・寺川志奈子監修, 鳥取大学附属養護学校(2005)『「自分づくり」を支援する学校』明治図書。
  - 5) 鳥取大学附属特別支援学校高等部専攻科(2007)「専攻科資料 平成19年度高等部専攻科研究」『平成19年度公開研究会 鳥取大学附属特別支援学校の取り組み・学部別分科会資料』(2007年12月8日配布冊子)所収。

(2008年10月10日受付, 2008年10月16日受理)